

第 75 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2019 年 4 月 18 日 (木) 15 : 28 ~ 16 : 44
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3C
- 出席者 :
 - 〔学外委員〕
石田委員、今井委員、奥委員、名取委員、長谷川委員、林(康)委員、板東委員
藪中委員
 - 〔学内委員〕
田中学長、増山理事・副学長、横道理事・副学長、園部副学長
高梨副学長、道下副学長、宇佐美監事、林(礼)監事
- 欠席者 :
 - 〔学外委員〕 嶋津委員、林(文)委員

 - 〔学内委員〕 小島理事、角南学長特別補佐、渡邊大学運営局長

I. 審議事項

1. 学長選考会議委員の選考について

田中学長から、学長選考会議委員の選考について、学長選考会議の役割、構成、任期、審議事項、2019 年度の開催見込み等の説明があった。さらに、前期学長選考会議委員の任期が今年 3 月末日で満了したため、本日経営協議会学外委員の中から学長選考会議委員を 5 名選出したい旨説明があった。次に、学長選考会議委員の選出方法について意見を求めたところ、特に意見がなかったため、これまでと同様に投票による選出を行うこととなった。

投票の結果、石田寛人委員、奥正之委員、名取はにわ委員、長谷川閑史委員、板東久美子委員（五十音順）が学長選考会議委員として選出された。

2. その他

特になし。

II. 報告事項

1. 2019 年度科学研究費助成事業の採択状況について

岡部学術国際課長から、2019 年度科学研究費助成事業の採択状況について報告があった。

2. 2019 年度政策研究センター事業の採択結果について

岡部学術国際課長から、2019 年度政策研究センターリサーチ・プロジェクトおよび会議支援事業の採択結果について報告があった。

3. その他

特になし。

III. 協議事項

1. 4 月入学者の受入れ状況について

学長から、4 月入学者の受入れ状況について説明があった。

2. 日本理解プログラムの実施状況について

プレッサー口准教授から、日本理解プログラムの実施状況について説明があった。

◆主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：大変価値のあるプログラムであり、さらに関心がある人に本プログラムの成果を広めていくことが重要であると考え。その点についてはどのような計画があるか。

△：本プログラムは参加者から高評価を得ており、実施回数を徐々に増やし今年度は当初の2倍にあたる6回を予定している。ただし、GRIPSで実施しているプログラムはグループディスカッションを重視しており、キャパシティーの限界もある。このため、現在JICAと放送大学が連携し「日本近代化を知る7章 (Seven Chapters on Japan's Modernization)」というプログラムを作成し、放送大学としては初めて英語で日本人講師が日本近代史と日本社会についてのレクチャーを放送している。本映像の視聴を前提にインタラクティブセッションを実施するなどし、対象学生を増やすことが検討されているようである。

△：本プログラムは留学生が対象だが、本学の日本人学生と一緒にディスカッションをした方が双方にとって学ぶことができ、有意義なのではないか。

△：プログラム後半のグループディスカッションでは特に日本人学生と留学生が意見交換を行うことは意義があり、GRIPSとしては実施をしたいと考えているが、短期間の集中講座という時間の制約もあり、実現が難しい。ご意見を踏まえ、引き続き検討を行いたい。

○：JICA以外の留学生でも関心がある学生は多いのではないか。そのような学生に枠を設けることは将来的に可能か。ぜひ検討いただきたい。

△：日本に滞在する留学生の総数を考えると、現在本学のプログラムに参加する学生数は非常に限られた人数である。長期的には、放送大学で作成した教材を日本の各大学で参考にしていただき、それぞれの大学で留学生に対して特別プログラムを提供していただくということが考えられるのではないか。

○：プログラムに文化体験も含まれているが、海外では留学生に対し入学前に週に数日か週末だけでもホームステイをさせる取組みもある。本プログラムで東京や地方でホームステイをさせ、肌で文化を感じるということも検討の余地があるのではないか。

△：本プログラムに参加する留学生の多くはJICAの宿泊施設に滞在していることが多いのではと思う。今後の取組みとしてJICAと検討を行うことも考えられる。

以上